

# 旧河澄家



特集

「昔の暮らし展」

—蔵のはなし、民具のはなし—

## 展示・イベントのご案内

**昔の暮らし展**  
 展示期間 7月20日(木)～10月1日(日)

旧河澄家の蔵をこの夏公開します。  
江戸時代から受け継がれる昔の人の暮らしを  
蔵の中でのぞいてみませんか？

**昔の暮らし体験会**

日：7月20日(木) 10時～12時  
 参加費：無料  
 定員：20名(要予約)  
 申し込み：電話またはウェブサイトの問い合わせフォームにて  
 7月24日(日) 午後2時から受付  
 7月25日(日) からは、予約コーナーを開設します。  
 予約している方は、10分前まで受付です。

展示品：石臼挽き体験、火打ち石体験、煎餅の体験

※休館日・開場時間等はP12「イベントカレンダー」にてご確認ください。

**文学講座 上田秋成とゆかりの人々**  
 藤井千年氏

秋成は、「徳川幕府の御用」としての文藝家としての一面と、  
 「幕府政治」の一員でもありました。本講座では、「徳川  
 幕府」で唯一「幕府政治」を賞賛、美化した人物として  
 紹介します。また、秋成をゆかりとした人物の「素読み」  
 を秋成の視点から見ていただきます。

毛利重良 上田秋成  
 大工、木匠、幕府の 神楽、舞、浄瑠璃、  
 奉行・寺田屋の御用 狂言師、浄瑠璃師

松尾忠房 本居宣長 今福屋村  
 幕府の御用、大工、木匠、幕府の御用、  
 幕府の御用、大工、木匠、幕府の御用

平成29年 **9/17(日)** 参加無料  
 13:00～15:00

開催場所 文学講座「上田秋成とゆかりの人々」  
 会場：301号(3階) 申込：下記問い合わせまたはホームページ  
 無料受付フォームから  
 申込受付期間：7月24日(日)～7月25日(日)

※休館日・開場時間等はP12「イベントカレンダー」にてご確認ください。

## 展示・イベント

### 「昔の暮らし展」

2017年7月20日(木)～10月1日(日)

### 文学講座「上田秋成と周辺の人々」

2017年9月17日(日)

### 「祭礼展」

2017年10月5日(木)～10月29日(日)

### 「旧河澄家の秋祭り」

2017年10月15日(日)

### 「論語の素読会」

毎月第2・第4土曜日

※休館日・開場時間等はP12「イベントカレンダー」にてご確認ください。



# かわすみ家

2017  
Sep. vol. 9

東大阪市指定文化財 旧河澄家 ニュースレター

## もくじ

04 特集—昔の暮らし展—

06 日下の嘯—芝山古墳—

08 イベントレポート

5/20 春季ウォーキング—石切劔箭神社探訪—

6/4 歴史講座「鷹匠—日本人の愛した鷹—」

6/25 絵手紙教室

7/2 七夕飾りづくり&サマーコンサート

7/23 昔の暮らし体験会

10 Pick Up

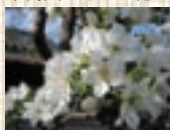
ミニ講座「石切劔箭神社と祭礼」

企画展示「鷹匠展」

12 イベントカレンダー

## 河澄家の自然

果樹園 なしの花



黄葉の にほひは繁し 然れども  
妻梨の木を 手折り挿頭さむ  
(よみ人しらす)  
たくさん繁る紅葉が美しい木があるが、あまり美しくない妻梨の木を挿頭として手折っていこうという心を詠んだ歌。

主庭 かやの実



榎の実の 嵐におつる おとづれに  
交るもさむし 山雀の声  
(伴林光平)  
かやの実が嵐で落ちる音に、山雀の音が弱弱しく混ざっている情景を詠んだ歌。

果樹園 あじさい



あぢさいの 八重咲くごとく  
八つ代にを いませ我が背子  
見つつ偲はむ  
(橘諸兄)  
「あじさいの花が八重に重なるように、いつまでも栄えているように」と、花を見る度に祈る心を詠んだ歌。

# 特集 むかしの話

皆さんの家に、「蔵」はありますか？  
旧河澄家には、昔の人々が使っていた道具が保管してあった、蔵が二つあります。  
今回「昔の暮らし展」の開催にあたり、そのうちの二つを初公開しました。今回の展示の中心となっている「民具」というもの、そして展示会場となっている「蔵」について紹介します。



「食」の展示



「住」の展示



「衣」の展示



「生業」の展示

## みんなの話

今回の「昔の暮らし展」の開催にあたり、旧河澄家では蔵の中にあった昔の暮らしの道具を、蔵とともに公開しました。

こうした昔の暮らしの道具は、「民具（みんなぐ）」と呼ばれています。今回の展示では旧河澄家に伝わる民具たちを、

「食」「衣」「住」「生業」(蔵内の展示順)の4つに分類しました。

「食事をする」「服を着替える」「生活をする」「仕事をする」

今と同じことをしていても、昔の人たちは今と同じ道具を使っていることもあれば、今とは違う道具を使っていることもあります。昔の人たちが過ごす一日を想像し、皆さんが日々過ごす一日と重ねながら、民具たちを見てみてください。

民具は私たちが生まれるよりずっと昔から、うんと長い時間を過ごして、今に伝わっている古い道具です。それだけの長い

年月を過ごして、今に伝わってきた民具たちは、

「私たちに、私たちの生まれる前の時間を生きた人々のことを教えてくれるもの」

「私たちに、私たちの今の生活がどいつのものなのか、もう一度考えさせてくれるもの」  
なのです。

民具を見ていると、

「昔の人の生活は大変だったんだな」

「今の時代は便利になったんだな」

きつとそんな感想が浮かんでくるかと思えます。

でも、それだけではなく、

「昔の人々は、物の特徴をどのように理解し、どのような工夫をして活用していたのかな」

「この時代から今までに、道具はどう進化したのかな」

そんな部分にも注目しながら、民具たちを見てみてください。

## くらしの話

日本の蔵の始まりは、弥生時代にまで遡ります。弥生時代になると、それまで各地を転々として暮らしていた人々が、「ムラ」をつくり、その「ムラ」の中で生活を始めます。それと同時に始まったのが、米をつくる稲作です。

石包丁などを使って収穫した米は、食べる時までどこかに保管しておかなければなりません。しかし、そのあたりに置いておいたのでは、鳥やネズミなどの動物や、虫などに食べられてしまいます。そこで米を保管するための建物、つまり「蔵」が生まれたのです。

そんな蔵が、今日の博物館の起源だということを、皆さんはご存知でしょうか？ 奈良の東大寺には正倉院という蔵があります。この蔵には聖武天皇の宝物が納められています。奈良時代、光明皇后が夫である聖武天皇の冥福を祈り、聖武天皇の宝物をここで保管しました。

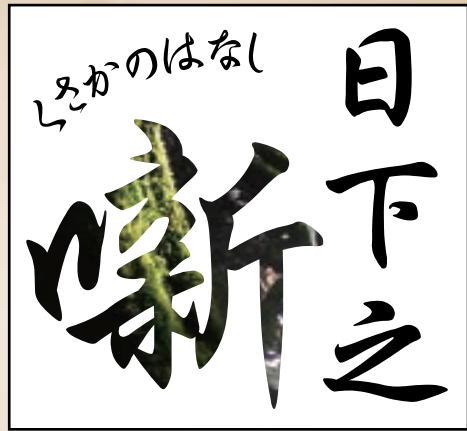
この正倉院に保管された宝物たちは、千年以上の時間が経った今でも、その形や輝きを保っています。それが実現したのは、正倉院という「蔵」のおかげでした。物の傷む原因として挙げられるものに、物の置かれている環境の温湿度の変化があります。正倉院という「蔵」は、温湿度の完璧な調節をすることができ、機能を持ち、保管してある物を守るためのつくりになっていたのです。

このように「蔵」というのは昔から「大切なものを保管しておくための施設」であり、それを守るための機能が備わっていました。これが今日の博物館という施設の起源となりました。

「昔の暮らし展」では蔵と民具の展示により、昔を知り、今を知ることが出来ます。昔の道具を知っている人も、昔の道具を知らない人も、どうぞ昔の道具たちが待っている蔵へお越し下さい。



—歴史コラム—



豊かな自然と文化の街、日下

生駒山麓～日下地域、河澄家の  
過去から現在に至るまでのおはなし

【芝山古墳】

旧河澄家のある日下町に隣接する東石切町の、かつて坊主山(ぼうずやま)と呼ばれていた山丘に芝山古墳(しばやまこふん)という未盗掘の古墳が発見され、明治二十年頃に大阪造幣局の技師として来日していた英国人のウィリアム・ガウランド氏はこの古墳の発掘調査を行いました。芝山古墳は横穴式石室を持つ全長約30メートルの前方後円墳で、築造年代は五世紀末から六世紀前半と推定されています。しかしこの古墳は昭和三十七年に宅地造成によって破壊され、今はその跡

地近辺の東石切町六丁目に説明板が残されているだけとなっています。ガウランド氏はこの調査によって出土した芝山古墳の遺物を英国に持ち帰って大英博物館に寄贈し、それらはガウランド・コレクションとして現在も収蔵されています。芝山古墳出土遺物の主なものは、多くの玉類等の装身具や武器類(直刀、短刀、鉄鏃(てつぞく)、馬具、土器類(器台、他)など約千二百点で、特に高杯型(こうはいがた)の器台(きだい)は高さ五三センチメートルの大型のもので、台部には四つの三角形の孔と二つの方形の孔が並べてあけられていて、波線の文様が施された特徴あるものです。

今から数年前に日英の専門家による合同調査チームがこれらガウランド・コレクションを調査した結果、その調査で新たな発見があったことが報じられました。日英合同調査チームはガウランド氏が遺した調査データを基に石室にみたてたスペースに出土品を正確に配置し、石室内の配置を復元してみました。その復元結果から、中央に配置された高杯型の器台は、単なる副葬品(ぶくそうひん)ではなく被葬者に対するお祀り(おまつり)の道具として使われたものであった事や、被葬者は一人ではなく一人目が葬られた後に二人目の追葬者(ついそうしや)の棺(ひつぎ)が横に配置され、器台をはさんで両側に配置されていた事、

などの新事実が浮かび上がってきたとしています。当時日本からこれらの貴重な遺物が持ち出されたことは残念なことだという見方もありますが、一方でそれらが大英博物館にコレクションとしてきっちり収蔵されていたことよって新事実の発見など良い結果に繋がったものと思われます。

この芝山古墳は周囲の平野が一望できる標高約八十メートルにある丘陵上の絶景を望む地点に築造されていることから、被葬者は当時の地方の有力者であった人物であろうと推定されています。その有力者とは、当時この地域の有力軍事氏族であった物部氏(ものべし)か、はたまた神事・祭祀を司りその後中央で勢力を伸ばしていった中臣氏(なかとみし)なのか。その古代の謎を解く鍵は今も大英博物館の収蔵庫の中にあるのかもしれない。



芝山古墳から出土した  
高杯型器台(高さ53cm)



芝山古墳跡周辺の風景



芝山古墳跡の説明板(東石切町六丁目)

旧河澄家にて開催しましたイベント&展示のご報告。  
地域の方々と触れ合いながら様々な催しを致しました！  
詳しいイベント報告はホームページにも掲載中です。

# KAWAZUMI REPORT



絵手紙教室



七夕飾り作り&サマーコンサート



昔の暮らし体験会

## 春季ウォーキング

二〇一七年五月二十日開催

今回のウォーキングでは、旧河澄家のある日下町と古くから関わりがある「石切劔箭神社」について学びました。まず、河内長野市文化財課の吉村君子氏に、「石切劔箭神社と祭礼」について講演いただきました。日下村森家庄屋日記から見る近世の祭礼の様子や、現在の祭礼でも見られる太鼓台や大幣神事について詳しくお聞きすることができました。講座後は、旧河澄家から二〇分ほど歩き、石切劔箭神社へ向かいました。神社では神職の方から直接お話を伺い、宝物殿や法通寺址も特別に拝観することができ参加者の皆さまも大変喜ばれていました。

## 歴史講座「鷹匠」

二〇一七年六月四日開催

今回の歴史講座では、講師に吉田流鷹匠の西尾俊通氏をお招きし、鷹匠の歴史についてご講演いただきました。鷹匠の衣装に身を包んだ西尾氏が話される「鷹匠」の歴史だけでなく、鷹にまつわるエピソードや、鷹匠が狩りの際に使用する道具の説明、鷹の訓練にまつわる話など・・・丁寧に、時にはおもしろ

くお話しいただき、会場が笑いに包まれるひと時もありました。講座が質疑応答の時間に移ると、熱心に質問される参加者の皆様と、問い以上の答えでそれに応える西尾氏のやりとりが印象的でした。

## 絵手紙教室

二〇一七年六月二十五日開催

今回は、絵手紙作家の西川正野先生を講師にお迎えし、絵手紙の指導をしていただきました。梅雨の時期に合わせて、ガクアジサイやオタフクアジサイなど数種類のアジサイを題材に描きました。先生の指導を受けながら、まず青墨を使ってアジサイの輪郭線を描き、顔彩(絵の具)で色を付けていきます。絵手紙では、余白部分に絵に添える言葉を書きますが、初めて絵手紙づくりに挑戦された方が、「手がふるえる。心もふるえる。」という言葉やハガキに書き添えておられたのが印象的でした。参加者の方々は完成した絵手紙を見せ合いながら、交流されました。今回制作した絵手紙はそれぞれ、ご家族やご友人に贈られるようです。

## 七夕飾り作り

&サマーコンサート

二〇一七年七月二日開催



今年も七夕に合わせて、七夕飾り作りとコンサートを実施し、約一四〇名の方にお楽しみいただきました。七夕飾り作りでは、近畿大学峰滝ゼミのゼミ生に作り方をご指導いただき、織姫や彦星提灯、スイカなど可愛らしい飾りを折り紙で制作しました。また、サマーコンサートでは、地域のフラスバンド「くりの木楽団」をお招きし、童謡メドレーなど全六曲を披露いただきました。二十数名による演奏はとても迫力があり、音色も美しく、小さなお子様も、リズムに合わせて歌ったり踊ったりと、演奏に聴き入っておられました。

## 昔の暮らし体験会

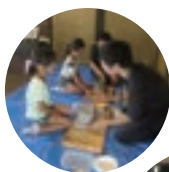
二〇一七年七月二三日開催

今回の体験会では、旧河澄家の紙芝居をお聞きいただいた後、グループに分かれて、4種類の体験をしていただきました。内容は、蔵の見学、火打石で火おこし体験、石臼できなこ作り体験、綿繰り体験です。参加者の皆さんはとても勉強熱心で、様々な質問をしながら体験を楽しんでおられました。また小学校低学年の方も参加されていました。火打石を使いこなして上手に火花を出しており、驚きました……なお、本日以降も事前にご予約いただけますと、火打石・石臼挽き・綿繰りの体験ができます。お気軽にお問い合わせくださいませ！



七月二日(日)に「七夕飾り作りイベント」を開催しました。当日は、三〜八歳のお子さんを中心に、約五〇名の方に参加いただきました。飾りは折り紙を用い、七夕らしい織姫・彦星の折り紙から夏の風物詩であるスイカや金魚の折り紙などを制作しました。子どもたちが四苦八苦しながらも楽しく、一生懸命折ってくれている姿を見ることができました。最後に一人ずつ笹を配り、そこに折った折り紙や短冊を紐で付けて飾ってもらいました。日頃あまり関わるこののない年代の子どもたちに積極的に話しかけ、わいわい楽しい雰囲気イベントを進めることができたので良かったです。歴史ある旧河澄家で夏の楽しい思い出を作ることができました。

七月二十三日(日)に「昔の暮らし体験会」を開催しました。当日は、約十名の参加者が集まり、子どもから大人まで様々な年齢層の方々にご来場いただきました。はじめに、旧河澄家についての説明が紙芝居で行われました。参加者は問いかけにも反応してくださり、紙芝居を熱心に聞いてくださいました。昔の暮らし体験は参加者に石臼挽き、火打石、綿繰りの3種類の体験と蔵の見学をしていただきました。石臼挽きでは、実際に大豆を挽いてきな粉を作っていたいただき、石臼を一生懸命に回している子供たちの様子はとても微笑ましかったです。「昔の人はきな粉にこんなに時間をかけるなんて!」と驚いている方もいらっしゃいました。昔の暮らしにとても興味を持って体験してくださり楽しんでいただくことができました。



石臼挽き



火打石



綿繰り



大緒(おおお)、忍縄(おきなわ)、足革(あしかわ)  
天助(よリモとし)、鞆(えがけ)



尾羽(おばね)、鈴板(すずいた)  
鈴(すず)



宮内省支給の口餌籠  
(くちえかご)

旧河澄家 企画展示

# 鷹匠展

旧河澄家では五月十八日〜六月十八日まで、鷹狩りの歴史を伝える「鷹匠展」を開催いたしました。今回の展示では、吉田流鷹匠 西尾俊通氏にご協力いただき、鷹狩りにまつわる道具や衣装、史料や写真や映像など、約六十点もの資料を展示しました。

鷹狩りは日本では約千七百年も前から行われていて、伝統的狩猟の一つでした。

時代の変化とともに公家や武士、天皇によって愛された鷹狩の長い歴史の中で、「吉田流」という流派が生まれます。

吉田流の特徴は、鶴のような大きな獲物を捕らえる「鶴御成(つるおんなり)」という狩りで必要な「鶴の肉当て(つるのししあて)」の技術にありました。

「こうした鷹狩の文化を後世に伝えたい」自身でも鷹狩りの文化を研究する西尾氏の思いから実現した今回の展示では、普段なかなか

見ることが出来ない展示品を、熱心に見つめる来館者の姿が多く見られました。



クチノマの展示  
鷹匠の衣装と、台架(だいぼこ)



ナンドの展示  
明治・大正・昭和の鷹匠の写真や新聞記事

旧河澄家 春季ウオーキング

# 石切劔箭神社探訪

五月二十一日に実施した「春季ウオーキング―石切劔箭神社探訪―」では、河内長野市教育委員会とふるさと文化財課の吉村君子氏をお招きし、石切劔箭神社と祭礼についてお話いただきました。今回は数ある祭礼の中でも、特に盛り上がりをもせる「夏季大祭」と「秋季大祭」について教えていただきました。ここでは、その内容を一部講座資料より抜粋して、紹介したいと思います。

pick up!



①まずは、ミニ講座で予習!



②歩いて石切劔箭神社に到着!



③神職にご案内いただきました!

## 御霊会と大幣神事(講座資料より抜粋)

河内長野市文化財課 吉村 君子

### 御霊会

貞観五年(八六三)に平安京神泉苑で「思いがけない死を遂げた人物の魂を御礼として祀り、その鎮魂のために行われる祭り」が、記録に見られる最初の御霊会である。その後、御霊会は時代によって変化しながらも全国に広まった。現在も残っている最も著名なものとしては、京都の祇園祭が挙げられる。時代を経るに従ってその意味や考え方も変化し、近世には「非業の死を遂げた人物の霊魂は災厄となり、依代となる御幣や山車などが神社の氏地を渡御行列などでまわってそれらの災厄を集める。それを神社で清めることよって氏子の健康や五穀豊穰、疫病の流行の抑制がかなう」と考えられるようになった。この御霊会が、夏季に行われる祭礼として残る神社も多い。

諸説あるが、御霊会がもとなっている祭礼の特徴として、

- ① 神社に牛頭天王、もしくはスサノオノミコトが祀られる。(明治時代以降、牛頭天王はスサノオノミコトとして祀られる場合が多い)
- ② 夏に祭礼がおこなわれる。
- ③ 祭礼に依代となるものが出され、渡御などによって氏子域をまわる。

が挙げられる。すべての祭礼がこれにあてはまるわけではなく、例外もみられる。

### 大幣神事

夏季大祭の期間中には、青年団の若者が大幣を奉納する「大幣神事」が三日間にわたって行われ、行われる日に応じて「宵撓(よいため)」、「本撓(ほんため)」、「納撓(しまいため)」などと呼ばれる。また大幣そのものも、地域では「オイタメ」という通称で呼ばれることもある。この「タメ」は「撓」、つまり大幣を「撓らせる」ことに由来すると考えられている。

近世以前には石切劔箭神社にも牛頭天王が祀られていたこと(①)、また大幣が夏季大祭の渡御行列に組み込まれて氏子域をまわること(②)、(③)などから、この夏季大祭ももとは御霊会の一環であり、大幣は御霊会において依代の役割を果たすものとして渡御に組み込まれたと考えられる。ただし享保年間の記録しかのこっていないことから、近世以前の御霊会と同じものかどうかは検討の余地がある。



約7mもある大幣を鳥居前で撓らせる



辻子地区の太鼓台



〈2017年9月〜〉

# 旧河澄家 イベントカレンダー



※イベント日程は本誌発行時の予定ですので、都合により多少前後する可能性があります。詳しくはお問合せください。

<p style="text-align: center;">昔のくらし展</p>	<p style="text-align: center;">文学講座</p>
<p><b>7/20(木)</b> 旧河澄家の蔵を、この夏初公開します。江戸時代から受け継がれる昔の人々の暮らしを蔵の中でのぞいてみませんか？</p> <p><b>～10/1(日)</b></p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p style="text-align: center;"><b>昔の暮らし体験</b></p> <p>綿くり、火打石、石臼挽きを体験できます</p> <p style="text-align: right; color: white; background-color: red; border-radius: 50%; padding: 2px 5px;">※要予約</p>  <p style="text-align: right;">※詳細はお問合せください</p> </div>	<p><b>9/17(日)</b> 元大手前大学助教授の藤井千年氏をお迎えし、「上田秋成とゆかりの人々」というテーマでお話いただきます。「なにわの知の巨人」と云われた木村兼葭堂や、そのサロンを巡る文化人たちが、与謝蕪村・本居宣長などについても触れます。</p>  <p style="text-align: right;">※詳細はお問合せください</p>
<p style="text-align: center;">祭礼展</p>	<p style="text-align: center;">お祭りうちわ作り&amp;秋のコンサート</p>
<p><b>10/5(木)</b> 今年も秋の祭りの季節にあわせ、「祭礼展」を開催いたします。</p> <p><b>～10/29(日)</b> 今年は石切劔箭神社の地区に加え、枚岡神社の地区の太鼓台を数点展示いたします！二つの地域の神社の太鼓台やお祭りの雰囲気、一度に味わってみませんか？</p>  <p style="text-align: right;">※詳細はお問合せください</p>	<p><b>10/15(日)</b> 祭礼展に合わせて、旧河澄家でも秋祭りを実施します！皆でお祭りうちわを制作した後、焼き芋をご賞味いただきます。またアンサンブル・ピパーチェによる演奏もお楽しみいただけます。ご家族やご友人とお誘い合わせの上、ふるってご参加くださいませ♪</p>  <p style="text-align: right;">※詳細はお問合せください</p>

きゅうかわずみけ

## 東大阪市指定文化財 旧河澄家

所在地 〒579-8003 大阪府東大阪市日下7丁目6-39  
 電話番号 TEL/FAX 072-984-1640  
 ホームページ <http://www.kyu-kawazumike.jp>  
 開館時間 午前9時30分～午後4時30分  
 休館日 月曜日(祝日の場合は翌日)  
 祝日の翌日・12月29日～1月3日  
 入館料 無料  
 駐車場 駐車場は5台(無料)  
 満車の場合は、近鉄けいはんな線「新石切駅」周辺の有料駐車場をご利用ください。

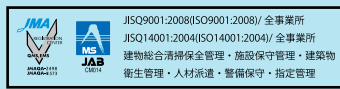
- ◆アクセス方法  
 公共交通機関をご利用の場合  
 ・近鉄奈良線「石切駅」より徒歩約20分  
 ・近鉄けいはんな線「新石切駅」より徒歩約20分  
 ・近鉄奈良線「瓢箪山駅」または近鉄けいはんな線「新石切駅」より、  
 近鉄バス「四条暖行き」または「住道行き」に乗車「南日下」バス停より徒歩15分  
 ・JR学研都市線「住道駅」または「四条暖駅」より  
 近鉄バス「瓢箪山駅行き」に乗車「南日下」バス停より徒歩約15分

マイカーをご利用の場合  
 ・旧国道170号線「日下4丁目」交差点を東へ、約600m直進

◆指定管理者 株式会社アスウェル TEL: 072-939-7861 FAX: 072-952-4340  
 URL <http://www.asuwell.co.jp>  
 E-mail [mail@asuwell.co.jp](mailto:mail@asuwell.co.jp)



株式会社アスウェルは、総合ビルメンテナンス会社として、次の認証を取得しています。



JISQ9001:2008/ISO9001:2008/全事業所  
 JISQ14001:2004/ISO14001:2004/全事業所  
 建物総合清掃保全管理・施設保守管理・建築衛生管理・人材派遣・警備保守・指定管理